

四日市版コミュニティスクール報告書（令和3年度総括）

四日市市立常磐中学校

校長 三谷 耕介

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

- ① 開かれた学校づくりをめざし、地域・保護者とともに協働できる学校にするために協議会を設置し、様々な視点から意見や考えを交流し合いながら、地域コミュニティづくりを推進します。
- ② 教育活動を学校評価に基点を置いたものとします。そのために、これまでの学校関係者評価をより充実させて改善に努めることで、保護者や地域の方々の思いや願いを反映した学校づくりを推進します。
- ③ 学習支援をはじめとして、様々な教育活動に保護者や地域の方々との活動を継続・発展させ、「地域とともにつくる学校」の推進を図ります。
- ④ 教育を取り巻く社会情勢は、大きく変化しています。新たな教育課題について、学校外からの視点も参考にし、課題解決に向けて取り組みます。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

昨年度より発足した本校の運営協議会は、4回の会議を計画しました。(1回は学校休業期間のため中止)2年目となり地域との協働活動を計画しましたが、感染症拡大防止のため予定通り実施することができませんでした。

このような状況下の中、運営協議会や地域の方に協力していただきながら以下にあげる活動を行うことができました。

《吉田山農園作業》

学校に隣接する吉田山農園で、1年生が種を撒き、除草、収穫を行いました。家庭生活では体験することのない、種まきから収穫までを行う体験学習は、自然に触れ合う機会が少なくなった子どもたちにとって有意義な活動で、活動中に子どもたちが見せる生き生きとした姿は、体験活動・集団活動の重要性を再確認できる場となっています。



6月より実施

《福祉体験学習》

1年生の福祉体験学習では子どもたちが様々な方と触れ合う中で、社会性を身に付けていくことができます。このような体験をもとに集団生活の中で共に創り上げる喜びを感じ、支え合い認め合い向上し合



う生徒を育てていきたいと思っています。四日市市社会福祉協議会の協力を得て、障がいのある方に来ていただき、福祉は人々の生活を豊かにするものであり、障害の有無にかかわらず様々な人の幸せを実現するためにあることを、講演を通じて実感することができました。(また、視覚障がいのある方とともにサウンドテーブルテニスを体験させていただき、交流をしました。) 障害のある方の講演を通して生徒たちは、“障がい者”というひとくくりでなく、その思いや生活は一人一人違うことを感じるすることができました。



10月22日、11月9日に実施

《ザ・プロフェッショナル（職業講話）》

毎年、PTAが講師の選定・依頼・受付接待などを行っています。保護者のネットワークで、地域で活躍する技芸サービス・教育・芸能・体育スポーツ・農林水産等多彩な分野の講師を毎年選んでもらっています。生徒たちは目を輝かせて話を聞いていました。



《マナー講座》

12月10日に実施

2年生は進路学習の一環の職場体験を実施できませんでした。その代替えにキャリア・クリエーションから講師を招き、マナー教室を開催しました。マナーの重要性・今後の人生に役立つマナーのお話を中心に、相手に良い印象を与えるかは、最初の1分で決まる等の全体指導をしたのち、各教室でより詳しく丁寧にマナーについての講義をしていただきました。



10月21日実施

《吉田山環境整備作業》

PTAを中心に年間2回土曜活動として実施する予定でしたが、残念ながら全て中止となりました。来年度の実施に向けて道具の補充など準備をしました。

《凧づくり・凧あげのボランティア》

常磐地区社会福祉協議会の家族ふれあい事業の凧づくり・凧あげのボランティアに11名の生徒が参加しました。120組の常磐地区の御家族とともに参加し、各々が描いた個性豊かな凧を作り大空にあげる補助をするとともに、受付等のボランティアをしました。



《竹馬整備ボランティア》

12月12日に実施

常磐地区社会福祉協議会文化教養部が開催している伝承文化（昔遊び）交流会に使用する『竹馬づくり』に有志の生徒21名が参加しました。最初は、調

整の仕方がわからない様子がありましたが、協議会の方や友人に教えてもらいながら調整することができました。出来上がった竹馬は、伝承文化交流会で小学1年生が使用する予定です。

本校では、普段の生徒の活動を見ていただけるように運営協議会の開催は、生徒の活動している時間に行うようにしています。今後も、学校運営協議会が参画していくことで、より地域とのつながりが強くなり、子どもを地域で育てる仕組みが強化されると考えています。

1月16日実施



(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

昨年度よりコミュニティスクール（運営協議会）が発足し、地域の方と生徒との繋がりが深まる取組を計画していただくことができました。その反面、感染症の拡大により令和元年度まで、参加させていただいていた防災訓練等の催しに参加することができず残念なこともありました。その中で、委員の方を中心とした働きかけのおかげで、地域行事に参加させていただき、感謝しております。運営協議会を置くことにより、豊富な知識や経験を持つ地域で活躍されている方々などに本校の教育活動や生徒の様子を知っていただくことで、様々な意見や支援をいただくことができました。また、私たちも多様な視点で学校を見ることで、地域の方の願いや期待を知ることができました。

学校内での取組としては、福祉委員会の活動として、地域行事への参加を募り、生徒への意識付けとしました。参加することで自己有用感を得て、前向きに参加する生徒が増えました。

3 今後に向けて

今後の活動での課題として、以下の三つを考えています。

一つ目の課題は、地域行事に積極的に参加する生徒が少ないことです。今後、委員会活動を中心に参加を増やしていけるよう工夫をしていきます。

二つ目の課題は、職員にコミュニティスクール（運営協議会）の意義が浸透していないことです。2年目になりますが、業務改善という意識もあり、休日に地域行事に積極的に参加する職員がいません。管理職が教員とのパイプ役を務めるのみに終わっています。継続してコミュニティスクールの取組が職員の中に定着するように取組ごとに担当職員を参画させていきます。そのためには、勤務時間内に参加できる行事等を考える必要があります。多くの職員が地域行事を知り、活動の意義を再確認できることで、生徒の参加も増えてくると考えています。

三つ目の課題は、学校公開日に参観していただく保護者・地域の方々が限られていることです。事前に案内を配付するだけでなく HP 等を通じて昨年の取組の様子を伝えたりするなど、参観していただきやすい方法を今後も継続して模索していきたいと考えています。